

大学院臨床人間学研究科 カリキュラムマップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に修士(臨床心理学)の学位を授与します。 ①公認心理師および臨床心理士としての活動に必要な知識や技能を実践的に応用できる(知識・技術・行動)〔公は公認心理師、臨は臨床心理士資格関連科目〕 ②各人がよりよく生きられることをめざして、心の問題に真摯にアプローチできる(意欲・態度・思考) ③地域支援における多職種連携を実践できる(技術) ④現代社会における心理社会的問題を把握し、臨床心理学的な対応策を探索できる(思考・創造)									
科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	
天理教人間学特論	講義	1・2	2	比較宗教学的な視点から、世界の宗教における人間観を把握するとともに、天理教の教義が開示する生の根源の地平から、天理教のコスモロジーとその構造を明らかにする。 さらに現代社会の諸問題や現代思想の研究動向を踏まえながら、人間存在の根源的事実性とその意味について掘り下げて考察する。	1. 天理教のコスモロジー（人間観・世界観）とその基本構造について、比較宗教学的な視座から理解する。 2. 現代社会の諸問題も射程に入れながら、今ここに生きていることの意味について、生の根源の地平から探究することができるようになる。		◎		◎	
臨床心理学特論1	講義	1・2	2	心理療において、治療関係がいかに重要であるかを理解したうえで、共感的理解、作業同盟、中立性、転移、逆転移といった治療関係にかかわる臨床的概念について、概念の歴史的变化も踏まえつつ、臨床場面に即して学習する。	1. 心理療法において関係性がいかに重要であるかを理解できるようになる。 2. 臨床的概念を理解し、説明できるようになる。 3. 臨床的概念を実践面で活用できるようになる。	◎ 臨				
臨床心理学特論2	講義	1・2	2	心理臨床の理論が、実践にあたって、どのように活かされるのかについて、具体的に検討していく。 病態水準に基づく見立て、プレイセラピーの基本姿勢、描画・箱庭・夢などにおけるイメージへのアプローチについて、講義する。また、とくに発達障害についてとりあげる。	1. 臨床事象をクライアントとセラピストの関係性からとらえる視点を習得する。 2. 臨床事象を内的イメージからとらえる視点を習得する。 3. 治療関係の理解とイメージの理解を見立てや治療実践に活用する姿勢を身につける。	◎ 臨				
臨床心理面接特論1(心理支援に関する理論と実践)	講義	1・2	2	各種の治療理論や概念の系統的理解をめざすとともに、それらを客観視し、批判的に検討する。 いわゆるハウトゥ的に面接技法を習得するのではなく、それらが根差す臨床体験にまで遡り、理論や方法を、実践に有機的に応用できるようになることを目標とする。	1. 力動論に基づく心理療法の理論と方法について概説できる。 2. 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法について概説できる。 3. その他の心理療法の理論と方法について概説できる。 4. 心理に関する相談、助言、指導等に諸理論・方法を応用できる。 5. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法を選択・調整し実践できる。	公 ◎ 臨	◎			
臨床心理面接特論2	講義	1・2	2	「臨床心理面接特論1」の学習内容を踏まえたうえで、心理面接に必要とされる、見立てやアセスメント、治療方針の策定、そしてクライアントの病態やニーズに応じた心理的援助の実践について、事例も交えて、具体的に学ぶ。	1. 心理アセスメントができるようになる。 2. クライアントに応じた面接方針を立案できるようになる。 3. 面接方針に基づいた心理的援助を実践できるようになる。 4. 状況に応じて、面接方針を変更できるようになる。 5. 援助効果を把握できるようになる。	◎ 臨	◎			
臨床心理査定演習1(心理的アセスメントに関する理論と実践)	演習	1	2	公認心理師・臨床心理士として、習得が望まれる心理アセスメント法に習熟する。 検査結果を全人的理解にどう活かすのか、またクライアントにフィードバックする際の留意点といった実践知も含めて、適切なアセスメントができる臨床能力を身につける。	1. 心理アセスメントの意義を理解する。 2. 心理アセスメントの理論と方法(力動論的アセスメント、WISCやK式発達検査、PARS CARS、描画など)を理解する。 3. 心理的相談、助言、指導にアセスメント結果を活用できるようになる。	公 ◎ 臨	◎			
臨床心理査定演習2	演習	1	2	「臨床心理査定演習1」の学習内容を踏まえたうえで、とくに投影法(描画やロールシャッハ・テスト)の理論と実際の実施方法、スコアリング、所見の作成、クライアントへのフィードバックの留意点、心理療法への有効活用等について、実地に学ぶ。	1. 心理アセスメントの目的と倫理を理解する。 2. 描画によるアセスメントができるようになる。 3. ロールシャッハテストによるアセスメントができるようになる。 4. 投影法の総合的所見を作成できるようになる。 5. アセスメントを心理療法に活用できるようになる。	◎ 臨	◎			
臨床心理基礎実習1	実習	1	1	カウンセリングルームにおいて実際にクライアントを担当するうえで必要とされる基本的な業務内容、実際上の知識や心構えを学習する。 具体的には、申込受付、インテーク面接設定、申込者への連絡、料金の受領、面接室・プレイルールの管理、面接記録の保管、守秘義務、トラブルへの対応法等々を習得する。	1. 心理援助機関としてのカウンセリングルームにおける実務総体を理解する。 2. 訓練生として、他の構成員との協働のもと、疎漏なく、基本的業務を実践できるようになる。	◎ 臨				
臨床心理基礎実習2	実習	1	1	幼稚園と小学校の現場に出向き、子どもたちに直接かわかることによって、心理的問題を抱えた子どもたちや発達障害の子どもたちについて、共感的な理解を深め、心理職として、支援の場に応じた適切な支援を提供するにはどうすべきかを理解する。	1. 児童・生徒に対する心理的支援に必要とされる基礎的態度を身につける。 2. 他者理解の能力を高める。 3. 教諭や保育士などの他職種との連携について理解する。	◎ 臨				○
臨床心理演習	演習	1	4	修士2回生がカウンセリングルームで実際に担当した相談事例について、参加者全体で議論し(いわゆるケース・カンファレンスに参加し)、事例の提示方法を理解する。 具体的な事例に沿って、観察学習・モデル学習的に、心理援助職として必要とされる技量を総合的に習得する。	1. 心理専門職としての職業倫理を実践例に即して身につける。 2. ケースカンファレンスにおける事例提示の方法、とりわけ守秘義務・個人情報保護に関する適正な姿勢を身につける。 3. 自分自身が相談事例を担当するうえでの実践的モデルを身につける。		◎			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に修士(臨床心理学)の学位を授与します。 ①公認心理師および臨床心理士としての活動に必要な知識や技能を実践的に応用できる(知識・技術・行動)〔公は公認心理師、臨は臨床心理士資格関連科目〕 ②各人がよりよく生きられることをめざして、心の問題に真摯にアプローチできる(意欲・態度・思考) ③地域支援における多職種連携を実践できる(技術) ④現代社会における心理社会的問題を把握し、臨床心理学的な対応策を探索できる(思考・創造)									
科 目 名	授業 形態	配 当 年 次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	
心理実践実習1	実習	1	2	カウンセリングルームにおいて、教員や学外スーパーバイザーの指導のもと、実際にクライアントを担当し、心理アセスメントや心理療法を実践し、心理専門職、とりわけ心理療法家としての力量を涵養する。	公認心理師として、個別心理療法を実践するうえで必要となる考え方や態度を身につける。 1. クライアント理解に関する知識および技能 2. クライアントのニーズの把握および支援計画の作成 3. チームアプローチ 4. 多職種連携および地域連携 5. 職業倫理および法的義務への理解	公◎	◎			
臨床心理実習1(心理実践実習2)	実習	2	2	カウンセリングルームにおいて、教員や学外スーパーバイザーの指導のもと、実際にクライアントを担当し、心理アセスメントや心理療法を実践し、心理専門職、とりわけ心理療法家としての力量を涵養する。	臨床心理士・公認心理師として、個別心理療法を実践するうえで必要となる考え方や態度を身につける。 1. クライアント理解に関する知識および技能 2. クライアントのニーズの把握および支援計画の作成 3. チームアプローチ 4. 多職種連携および地域連携 5. 職業倫理および法的義務への理解	公◎ 臨	◎			
臨床心理実習2	実習	2	1	カウンセリングルームにおいて、教員や学外スーパーバイザーの指導のもと、実際にクライアントを担当し、心理アセスメントや心理療法を実践し、心理専門職、とりわけ心理療法家としての力量を涵養する。	臨床心理士として、個別心理療法を実践するうえで必要となる考え方や態度を身につける。 1. 心理アセスメントができるようになる。 2. 適切な介入法を選択し、心理的援助を総合的に立案できるようになる。 3. 心理療法をはじめとした適切な心理的援助を提供できるようになる。	◎ 臨	◎			
心理実践実習3春	実習	2	2	天理よろづ相談所病院の精神神経科、および緩和ケアなどにおいて実習することにより、病院臨床に必要とされる知識と実践技能を涵養する。	医療分野における公認心理師として必要となる考え方や態度を身につける。 1. 心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能 2. 患者の理解とニーズの把握および支援計画の作成 3. チームアプローチ 4. 多職種連携および地域連携 5. 職業倫理および法的義務への理解	公◎		◎		
心理実践実習3秋	実習	1	2							
心理実践実習4春	実習	2	2	天理市教育総合センターが主宰する天理市内の小中学校の不登校児を対象とした適応指導教室(通称:いちょうの木教室)において、実習することにより、教育臨床に必要とされる知識と実践技能を涵養する。	教育分野における公認心理師として必要となる考え方や態度を身につける。 1. 心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能 2. 児童生徒の理解とニーズの把握および支援計画の作成 3. チームアプローチ 4. 多職種連携および地域連携 5. 職業倫理および法的義務への理解	公◎		◎		
心理実践実習4秋	実習	1	2							
心理実践実習5	実習	1	2	児童養護施設である天理養徳院において実習することにより、福祉臨床に必要とされる知識と実践技能を涵養するとともに、多職種連携と関連する法的義務を学ぶ。	福祉分野における公認心理師として必要となる考え方や態度を身につける。 1. 心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能 2. 入所児童の理解とニーズの把握および支援計画の作成 3. チームアプローチ 4. 多職種連携および地域連携 5. 職業倫理および法的義務への理解	公◎		◎		
精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	1・2	2	公認心理師として必要とされる精神医学の基礎知識を学ぶとともに、精神科リエゾンのもとより、保健医療分野全般の支援がよってたつ精神医学の諸理論について学び、想定されるさまざまな事象に対する精神医学視点からの理解とアプローチを習得する。	1. 保健医療分野の諸理論を大局的に概説できるようになる。 2. 主たる精神疾患について、実際の心理的支援のあり方を実践できるようになる。	公◎ 臨				○
福祉分野に関する理論と支援の展開	講義	1・2	2	福祉分野における公認心理師として必要とされる、児童相談臨床と障害児心理臨床における基本的な視座を、発達という角度から出来るだけ多面的に把握し、そのことの意義について、事例に即しながら理解し、理論と支援の実践について学ぶ。	1. 福祉分野における諸課題について、仮説検討できるようになる。 2. 援助対象者について、共感的に受け止めることができるようになる。 3. 他職種と連携することができるようになる。	公◎				○
教育分野に関する理論と支援の展開	講義	1・2	2	教育分野における公認心理師として必要とされる、心理アセスメントと心理的支援、心理療法の技能を習得する。 また、いじめや不登校などを未然に防止するための方策や、特別支援のあり方、コンサルテーションをはじめとした多職種連携についても学習する。	1. 教育臨床における心理アセスメントの技能を身につける。 2. 教育の現代的課題について検討できるようになる。 3. 多職種との連携や地域援助の実践について理解する。 4. 教育分野における行政や法律に関する知識を習得する。	公◎				○
犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	講義	1・2	2	司法・犯罪分野における公認心理師として必要とされる、非行や犯罪への心理学的理解を深め、司法臨床の実務で行う面接技法や心理アセスメントの方法等を学ぶ。 社会学や犯罪学の理論、刑事政策等についても学ぶ。	1. 司法・犯罪分野における公認心理師の実務や倫理を理解する。 2. 非行・犯罪に関する諸理論を理解する。 3. 非行・犯罪臨床の実務における心理アセスメントや処遇技法の基礎を身につける。 4. 分野に関する法律・制度について理解する。	公◎ 臨				○

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に修士(臨床心理学)の学位を授与します。 ①公認心理師および臨床心理士としての活動に必要な知識や技能を実践的に応用できる(知識・技術・行動) [公は公認心理師、臨は臨床心理士資格関連科目] ②各人がよりよく生きられることをめざして、心の問題に真摯にアプローチできる(意欲・態度・思考) ③地域支援における多職種連携を実践できる(技術) ④現代社会における心理社会的問題を把握し、臨床心理学的な対応策を探索できる(思考・創造)									
科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	1・2	2	産業・労働分野における公認心理師として必要とされる、勤労者のメンタルヘルス問題の予防や軽減策について、役立つ知識とスキルを習得する。 また、産業・労働分野に関する法律や制度(EAPなど)、そして組織論についても学習する。	1. 職場におけるメンタルヘルス問題と心理的支援について理解する。 2. 組織における人の行動について心理学的に理解する。 3. 産業・労働分野に関する法律や制度について理解する。	公 ◎				○
家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	講義	1・2	2	集団に対する心理学的支援に関する理論的背景と、それを基にした各種支援の実践について、体系的に学ぶ。 初めに家族に焦点を当て、家族関係がもたらす精神病理を理解し、家族療法などの心理的支援を学ぶ。つぎに、学校や地域社会における心理支援のあり方について、コミュニティ心理学をもとに理解する。	1. 家族関係等の集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について理解する。 2. 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について理解する。 3. 心理に関する相談、助言、指導等の実践において、1. 2. の知見を応用できるようになる。	公 ◎ 臨		◎		◎
心の健康教育に関する理論と実践	講義	1・2	2	心の健康(メンタルヘルス)の保持増進の歴史や理論的背景を理解する。 そのうえで、心の健康(メンタルヘルス)についての知識を普及させるための心理教育のありかたや、増進取り組みを促進する働きかけの方策について学習する。	1. 心の健康(メンタルヘルス)の保持増進の必要性について理解する。 2. 心の健康(メンタルヘルス)保持増進のための心理教育の方法を理解する。 3. 精神疾患やその他の精神状態について、心理教育的アプローチを組み立てられるようになる。	公 ◎	◎			○
心理統計法特論	講義	1	2	修士論文作成を視野に入れて、調査研究において必須となる統計的手法について学習する。 具体的には、推測統計の基礎(正規分布、区間推定、仮説検定など)、多変量解析(重回帰分析、因子分析など)を学んだうえで、SPSSを用いたデータ分析を習得する。	1. 推測統計の考え方を理解し、実際にSPSSを使い、カイ2乗検定や平均値差に関する検定(t検定、分散分析)を適切に活用できるようになる。 2. 回帰分析を適切に活用し、結果を解釈できるようになる。 3. 因子分析を適切に活用し、結果を解釈できるようになる。	◎ 臨	○			
臨床心理学研究法特論	講義	1	2	調査研究、事例研究、観察研究といった代表的な研究方法を取りあげて、それぞれの方法論の特徴について理解を深め、実際の研究内容に応じて、適切な研究方法を選択し、実行できるための知識と具体的手法を学習する。	1. 臨床心理学におけるさまざまな研究スタイルと研究方法を理解する。 2. 内容に応じた研究方法を選択し、研究計画を立案できるようになる。 3. 各研究方法に応じたデータ処理とデータに即した適切な論考ができるようになる。	◎ 臨	○			
臨床人格心理学特論	講義	1・2	2	心理臨床に活かす人格理解の方法と実際について学ぶ。 各種の人格理論、人格の発達と病理、人格の査定方法を踏まえたうえで、人格理論とアセスメントの結果を、具体的に心理面接に応用する視点を涵養する。	1. 各種の人格理論、およびそれらの相違点を理解する。 2. 人格の発達について理解する。 3. 人格の病理について理解する。 4. 人格の査定方法について理解する。 5. 人格論の臨床への応用を習得する。	◎ 臨				
発達心理学特論	講義	1・2	2	ピアジェやヴィゴツキーといった発達心理学の理論、フロイトやマラーニーといった精神分析的発達論、そしてボウルビーの愛着理論について学ぶ。 母子関係や家族関係の問題、病因的な関係性についても理解を深める。	1. 各種の発達理論、およびそれらの相違点を理解する。 2. 関係の発達を理解する。 3. 生涯発達の視点を習得する。 4. 発達論の臨床への応用を習得する。	◎ 臨				
心身医学特論	講義	1・2	2	癌を抱えるひとの心理と精神医学的問題、および、患者家族の心理について、癌医療現場の視点から、関連する理論と実践、そして心理的支援について理解を深める。	1. 癌に関する医学的な基礎知識を習得する。 2. 癌をはじめとする身体疾患を抱えたひとの心理、および精神医学的問題の評価と介入について理解する。 3. 癌患者の家族の心理と心理的支援を理解する。	◎ 臨				
心理療法特論	講義	1・2	2	心理療法の代表的な理論(精神分析、分析心理学、来談者中心療法、家族療法、認知行動療法など)や手法について、歴史的展開を軸に理解を深める。 それらの異同や適応症を理解するとともに、各理論の背景にある人間観や世界観を学ぶ。	1. 心理療法の歴史的展開を理解する。 2. 代表的な心理療法の理論を理解する。 3. 代表的な介入法を理解する。 4. 理論の背景をなす人間観・世界観を理解する。	◎ 臨	○			
学校カウンセリング特論	講義	1・2	2	スクールカウンセラーとして必要とされる、心理アセスメント、心理カウンセリング、心理療法の技能を習得する。 またとくに、いじめや不登校などを未然に防止するための方策や、特別支援のあり方、コンサルテーションをはじめとした多職種連携についても学習する。	1. 児童生徒への心理アセスメントの技能を身につける。 2. スクールカウンセラーの働き方を知り、現代的な課題について検討できる思考力を身につける。 3. 多職種との連携や地域援助の実践について知る。 4. 教育分野における行政や法律に関する知識を習得する。	◎ 臨				○
心理療法と宗教	講義	1・2	2	現代の心理療法において、スピリチュアリティの問題がどのように捉えられているのかを、ユング心理学を中心とした深層心理学の視点から振り返り、スピリチュアリティとは何か、心理臨床においてスピリチュアリティの問題がどう作用しているのかについて理解を深める。	1. スピリチュアリティについて、宗教的・臨床心理学的に理解する。 2. 現代社会におけるスピリチュアリティの問題を理解する。 3. 臨床場面におけるスピリチュアリティの作用について、理解する。		◎			◎

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に修士(臨床心理学)の学位を授与します。 ①公認心理師および臨床心理士としての活動に必要な知識や技能を実践的に応用できる(知識・技術・行動)〔公は公認心理師、臨は臨床心理士資格関連科目〕 ②各人がよりよく生きられることをめざして、心の問題に真摯にアプローチできる(意欲・態度・思考) ③地域支援における多職種連携を实践できる(技術) ④現代社会における心理社会的問題を把握し、臨床心理学的な対応策を探索できる(思考・創造)									
科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	
現代社会と宗教	講義	1・2	2	神話や儀礼として表出される宗教は、芸能・芸術(祈り、祭り、踊り、歌謡、演劇等々)と切り離せない。 昨今でいうスピリチュアリティ(精神的・霊性的)も含めた宗教性が、文明・社会といかなる関係にあるのかを多角的に学習する。	1. 宗教が文化と社会の根幹をなしてきたことが、理解できるようになる。 2. 宗教史的な展開と宗教文化が、社会のなかでどのような位置を占めるのかが、理解できるようになる。 3. 宗教性が、現代社会においてどのような問題性と可能性をもっているかについて考察できるようになる。		◎		◎	
臨床心理学課題演習	演習	1	2	各自の問題意識をもとに、研究テーマを決め、出来るだけ多くの関連文献にあたることによって研究テーマを絞り込み、明確化していく。 そのうえで、先行研究の要約を含めた修士論文ための研究計画発表を行い、ディスカッションを行う。	1. 研究倫理を身につける。 2. 先行研究を適切に参照・吟味することができるようになる。 3. 適切な問題設定ができるようになる。 4. 問題設定に適合した研究手法が選択できるようになる。		◎			
臨床心理学課題研究	演習	2	2	「臨床心理学課題演習」において、検討を重ねた研究計画をもとにして、文献を渉猟しながら、問題設定を明確にする。 調査・観察等の方法を検討するとともに、コメントを受けて、具体的な実施計画を練る。	1. 研究倫理を身につける。 2. 先行研究を適切に参照・吟味することができるようになる。 3. 適切な問題設定ができるようになる。 4. 問題設定に適合した研究手法が選択できるようになる。 5. データを適切に処理し、結果を明晰に記述することができるようになる。 6. 結果に即して論理的に論考することができるようになる。		◎			